

M-1 グランプリに関する データ分析

1 このテーマにきめた動機

私は最近M-1をみて漫才にはまり、何組か好きな芸人もできた。私の好きな芸人はみんな大阪のよしもと漫才劇場に所属している芸人で、もしかしたらM-1でもこういった偏りがあるかもしれない、と気になりこのテーマを選んだ。この結果と自分の特に好きな芸人2組のデータを照らし合わせて、今後のM-1での活躍について考察したい。

2.1 データ項目

M-1の成績

A	一回戦通過回数
B	二回戦通過回数
C	三回戦通過回数
D	準々決勝通過回数
E	準決勝通過回数
F	敗者復活通過回数
G	決勝1stステージ通過回数
H	優勝有無 0.無 1.有
I	出場回数
J	準決勝進出率
K	決勝進出率

関連を調べたい要素

L	メインスタイル 1.しゃべくり漫才 2.コント漫才
M	サブスタイル 1.オーソドックス 2.Wボケ 3.歌謡 4.ギャグ 5.ズレ 6. リターン 7.俯瞰 8.実況 9.憑依 10.メタ 11.独自
N	所属事務所 1.吉本興業 2.ケイダッシュ 3.タイタン 4.プロダクション 人力舎 5.マセキ芸能社 6.ワタナベエンターテイメント 7. サンミュージックプロダクション 8.SMA 9.グレープカン パニー 10.ザ・森東 11.太田プロダクション
O	地域 1.関西 2.関東
P	結成年数
Q	性別 1.男男 2.男女 3.女女 4.その他

2.2 各項目データの取得方法

<M-1成績・所属事務所・地域・結成年数・性別>

M-1公式HP(<https://www.m-1gp.com/combi/index.php>)を参照した。

成績：1組ずつ数えあげた。ただし2015年以降のものしかなかったため、2015年以降の成績である。(Max9)

結成年数：最後にM-1に出場した時の結成年数とした。(Max15)

地域：予選の会場で判断した。

<準決勝・決勝進出率>

準決勝進出率=準々決勝通過回数/出場回数

決勝進出率=(準決勝通過回数+敗者復活戦通過回数)/出場回数

<メインスタイル・サブスタイル>

M-1や YouTubeで実際漫才をみて判断した。種類については以下のサイトを参考。

<https://owarai-laboratory.work/manzai-kata/>

2.3.1 各項目の説明～事務所

吉本興業：多くの芸人が所属する大手芸能事務所

ケイダッシュ：オードリー、トム・ブラウンが所属

タイタン：爆笑問題、ウエストランドなどが所属

プロダクション人力舎：おぎやはぎや真空ジェシカなどが所属

マセキ芸能社：三四郎、モグライダーなどが所属

ワタナベエンターテインメント：ハライチ、Aマッソなどが所属

サンミュージック：かもめんたる、ぺこぱなどが所属

SMA：錦鯉、スタミナパンなどが所属

グレープカンパニー：カミナリ、サンドウィッチマンなどが所属

ザ・森東：さらば青春の光が立ち上げた個人事務所

太田プロダクション：タイムマシーン3号、納言などが所属

2.3.2 各項目の説明～メインスタイル

しゃべくり漫才：正統派漫才ともいわれる対話だけの漫才

例) ナイツ、中川家、銀シャリ

コント漫才：漫才の途中で特定の役になりきる漫才で大抵「○○
をやってみたい」というようなセリフから始まる

例) NONSTYLE、和牛、サンドウィッチマン

2.3.3 各項目の説明～サブスタイル

オーソドックス：よく使われるの漫才形式でコント漫才だとサンドウィッチマン、しゃべくり漫才だとナイツなどが挙げられる

Wボケ：M-12023の決勝1stステージでさや香が披露したようなボケが交代したりツッコミ不在の形式

歌謡：ダンビラムーチョのような歌をベースに行われる形式

ギャグ：フースーヤのような漫才の途中でギャグをはさむ形式

ズレ：バッテリーズのような誤ったタイミングや内容のツッコミをする形式

リターン：ミルクボーイのような強烈な偏見をもった肯定と否定を繰り返す

俯瞰：男性ブランコのようなコント漫才において二人ともコント設定に入るがツッコミの時に素に戻る形式

実況：スーパーマラドーナのようなコント漫才においてツッコミはコントに入らない形式

憑依：チュートリアルのようなボケは終始ボケの認識なく以上なことを言う狂人を演じる形式

メタ：さらば青春の光の「娘をください」のネタのようにメタ設定を使う形式

独自：ぺこぱの“つつこまないつつこみ”のような独自の形式

3 予想

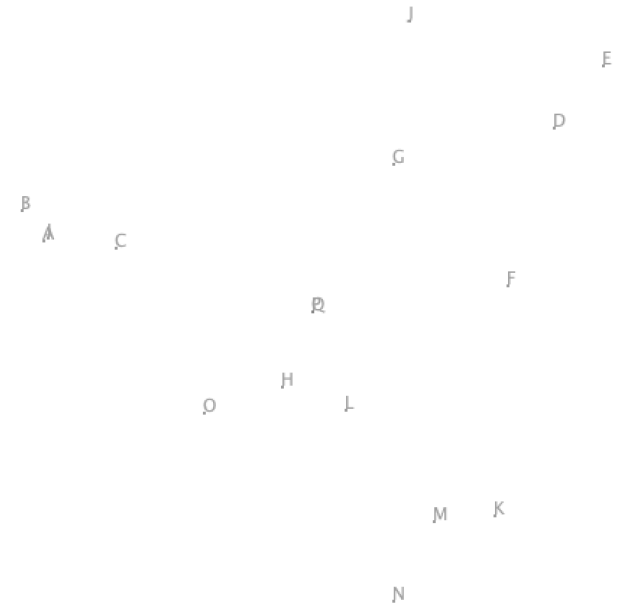
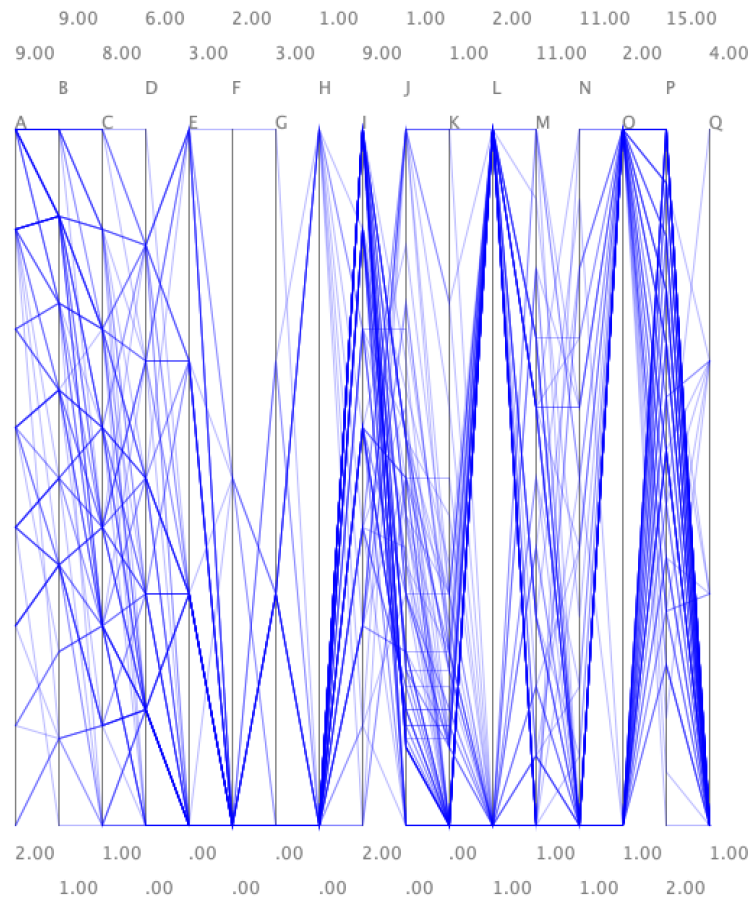
- 関西のコンビの方が成績が良い
 - >私が面白いと思う芸人の関西率が高いため
- 吉本興業の方が成績が良い
 - >やはり大手事務所が強いと考えたため
- 男男のコンビの方が成績が良い
 - >今年のM-1は敗者復活ふくめ女性がいなかったため
- オーソドックスな方が成績が良い
 - >ギャグや歌謡もおもしろいが賛否がわかれそうであるため
- コント漫才の方が成績が良い
 - >しゃべくり漫才の方が面白いネタを作るのが難しい気がするため

4 データの作成

Numeric	Numeric	Numeric	Numeric	Numeric	Numeric	Numeric	Numeric	Numeric	Numeric	Numeric	Numeric	Numeric	Numeric	Numeric	Numeric	Numeric	
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	
9	8	3	4	2	0	0	0	0	9	0.44444444	0.22222222	1	9	1	1	9	1
7	7	3	1	0	0	0	0	0	9	0.11111111	0	2	4	1	1	9	1
6	4	2	1	0	0	0	0	0	6	0.16666667	0	1	5	1	1	9	1
9	9	6	4	3	0	2	0	0	9	0.44444444	0.33333333	1	2	1	1	9	1
8	8	4	5	3	1	1	0	0	9	0.55555556	0.44444444	1	1	1	2	10	1
5	5	5	5	3	2	3	0	5	1	1	2	1	1	1	13	1	
7	6	5	3	1	0	1	1	1	7	0.42857143	0.14285714	2	8	1	2	5	1
9	9	7	2	1	0	1	0	0	9	0.22222222	0.11111111	2	1	2	2	12	1
9	8	6	3	1	0	0	0	0	9	0.33333333	0.11111111	2	4	2	2	14	1
9	8	7	2	0	0	0	0	0	9	0.22222222	0	2	1	1	2	15	1
4	4	3	3	1	0	1	1	4	0.75	0.25	2	8	1	1	5	1	
8	8	6	3	2	0	1	1	8	0.375	0.25	1	6	3	2	14	1	
9	7	5	3	3	0	0	0	0	9	0.33333333	0.33333333	2	10	4	2	11	1
9	8	6	2	2	0	0	0	0	9	0.22222222	0.22222222	1	3	5	2	14	1
9	9	8	4	1	0	0	0	0	9	0.44444444	0.11111111	2	1	1	1	12	1
9	9	7	5	2	0	1	0	0	9	0.55555556	0.22222222	2	1	1	1	14	1
8	8	5	2	1	0	0	0	0	8	0.25	0.125	2	7	1	2	13	1
8	8	7	5	3	0	1	0	0	8	0.625	0.375	2	1	1	1	15	1
4	4	4	4	3	0	2	0	0	4	1	0.75	2	4	1	1	15	1
4	4	4	4	3	1	1	0	0	4	1	1	2	8	1	2	15	1
3	3	3	3	1	0	1	1	1	3	1	0.33333333	2	1	1	1	15	1
6	6	6	5	2	0	1	1	1	6	0.83333333	0.33333333	2	8	1	2	13	1
4	4	4	4	2	1	0	0	0	4	1	0.75	1	11	6	2	15	1
9	9	8	5	1	1	1	0	0	9	0.55555556	0.22222222	1	1	1	2	11	1

全部で100組のデータを準備した。100組の選び方はM-1決勝、敗者復活戦出場者、YouTubeで知ったM-1敗者復活以上にはでていないがおもしろい芸人、女性コンビ、男女コンビ、吉本以外所属の芸人などできるだけ幅広く選んだ。ただしやはりM-1敗者復活以上で見たことがあるコンビが多く含まれる。

5.1 実行結果（何もしていない状態）



5.1.2 結果と考察

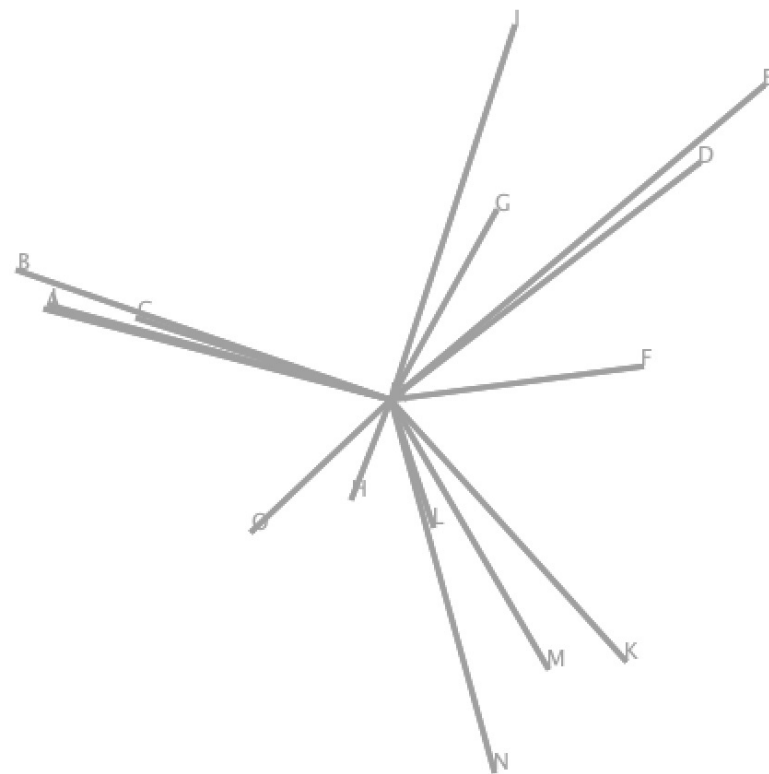
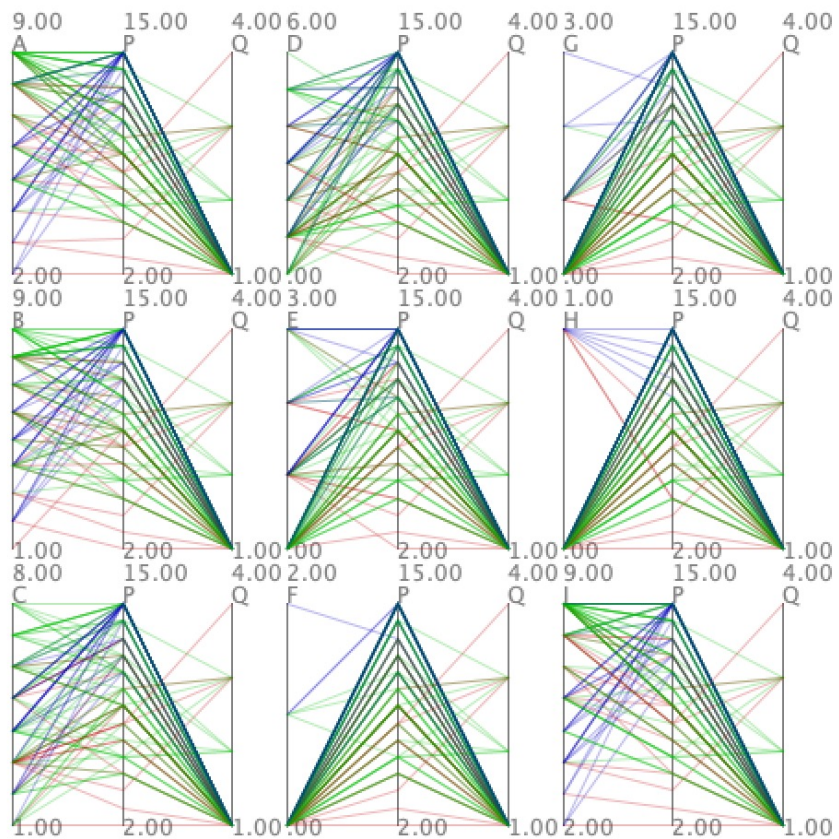
- ・ 散布図より一回戦通過回数(A)と出場回数(I)がほぼ重なっているなので関係が強そう

->M-1敗者復活以上から芸人を多く選んでいるので、現在敗者復活以上にいる芸人は参加当初から1回戦で敗退することはなかったのではないか

- ・ 散布図より結成年数(P)と性別(Q)がほぼ重なっているなので関係が強そう

次に、右上のスライダーを少しずつあげていきその経過ごとに考察していこうと思う

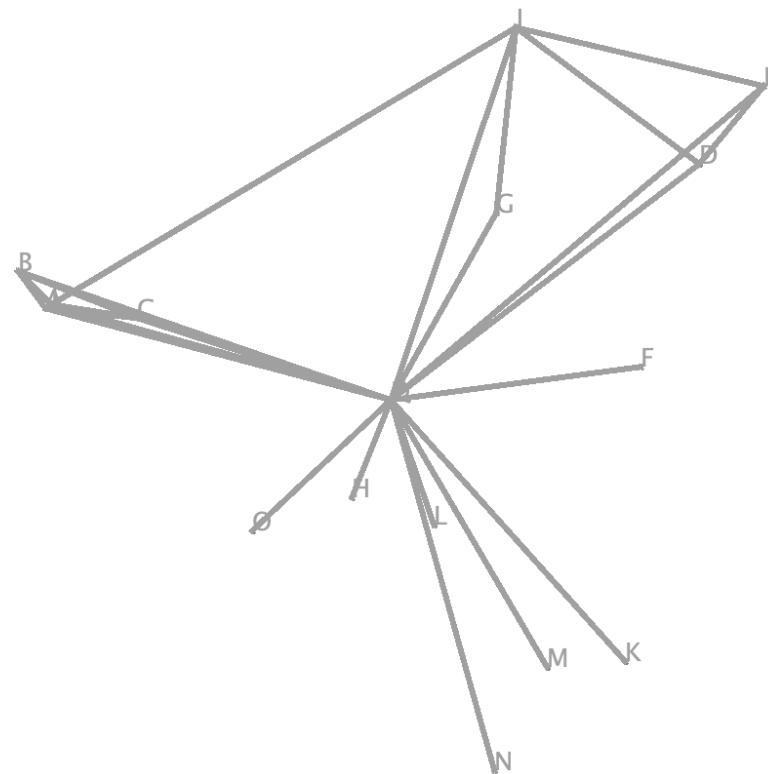
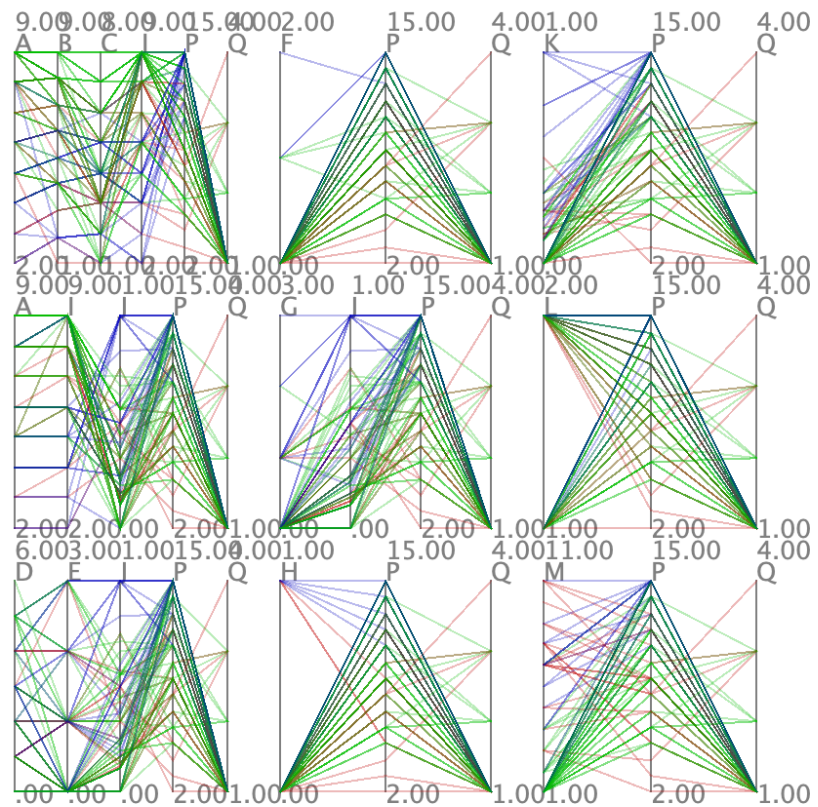
5.2.1 実行結果



5.2.2 結果と考察

- ・ 散布図よりすべての項目が結成年数(P)と性別(Q)と関係が強い
- ・ PPより結成年数(P)が長く性別(Q)は男男(1)のコンビが多いことがわかる

5.3.1 実行結果



5.3.2 結果と考察

- ・準決勝進出率(J)に着目

[AIJPQ]準決勝進出率(J)の高い青い線を見る。性別(Q)はすべて男男(1)で、結成年数(P)は長く、一回戦通過回数(A)と出場回数(I)は等しい。よって結成年数の長い男コンビの準決勝進出率は高く、準決勝進出率の高いコンビは初出場時から一回戦を確実に通過していることがわかる。

[GJPQ]決勝1stステージ通過回数(G)の多いグループは準決勝進出率(J)の高いコンビに多い。このことから決勝1stステージを通過するコンビは準々決勝まで安定して通過していることがわかる。

[DEJPQ]準決勝通過回数(E)が高いコンビは準決勝進出率(J)も比較的高いが準決勝通過回数が低いコンビの方が準決勝進出率(J)が高いこともあり、決勝進出はあまりできていないが敗者復活常連の人がいることがわかる。

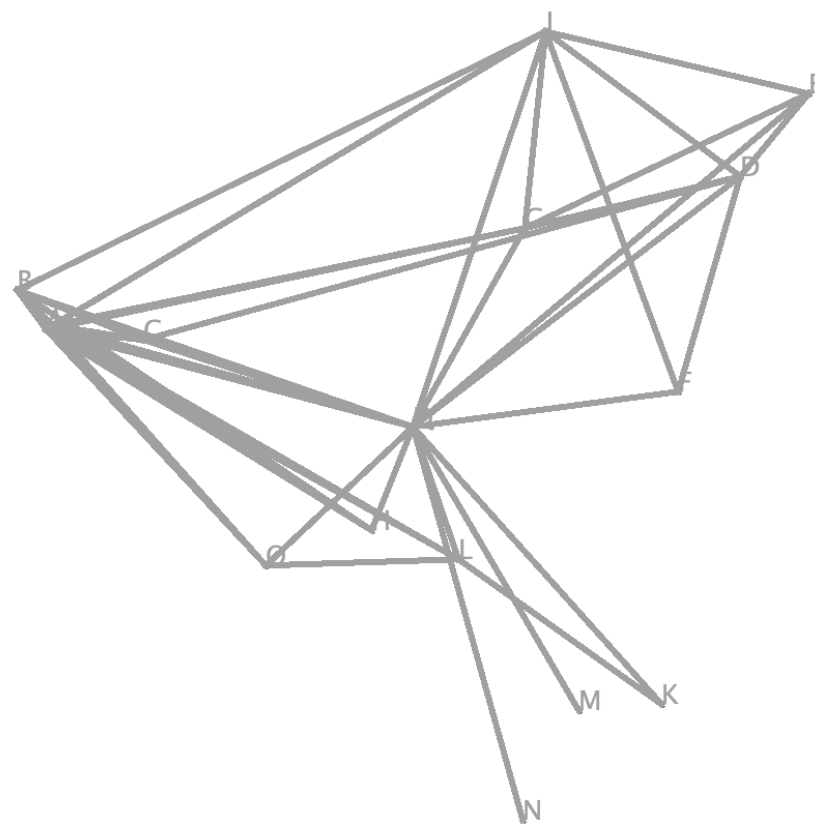
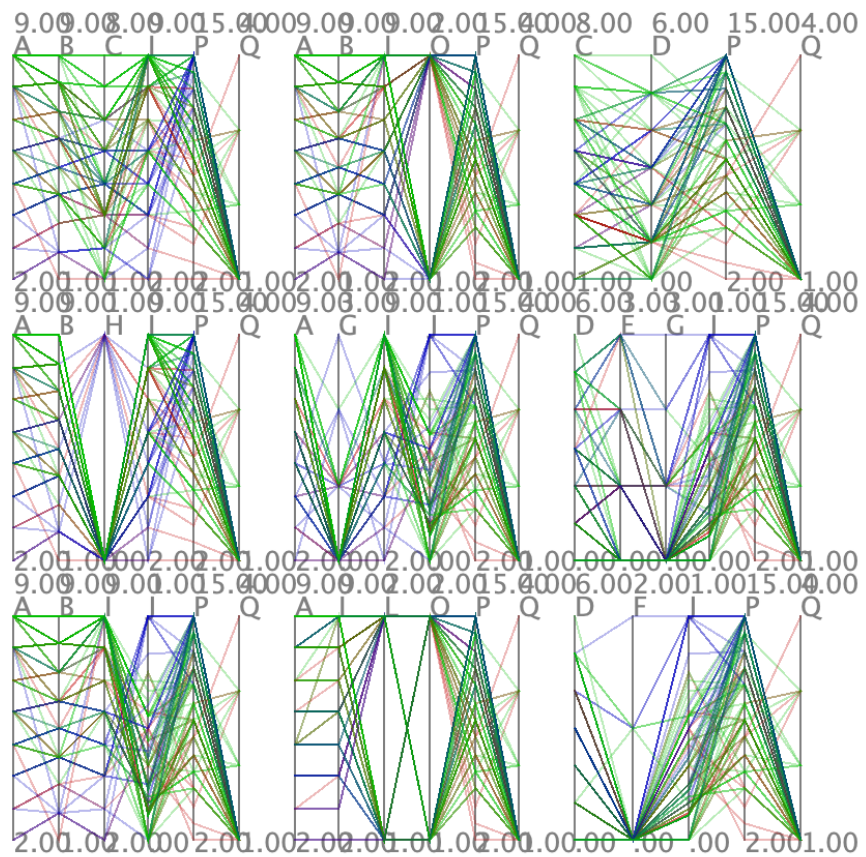
- ・決勝進出率(K)に着目

[KPQ]決勝進出率の高い青い線を見る。性別(Q)は準決勝進出率と同様すべて男男(1)で結成年数(P)も長いことがわかる。

- ・優勝有無(H)に着目

[HPQ]優勝したコンビは結成年数(P)が長く、性別は男男(1)である

5.4.1 実行結果



5.4.2 考察

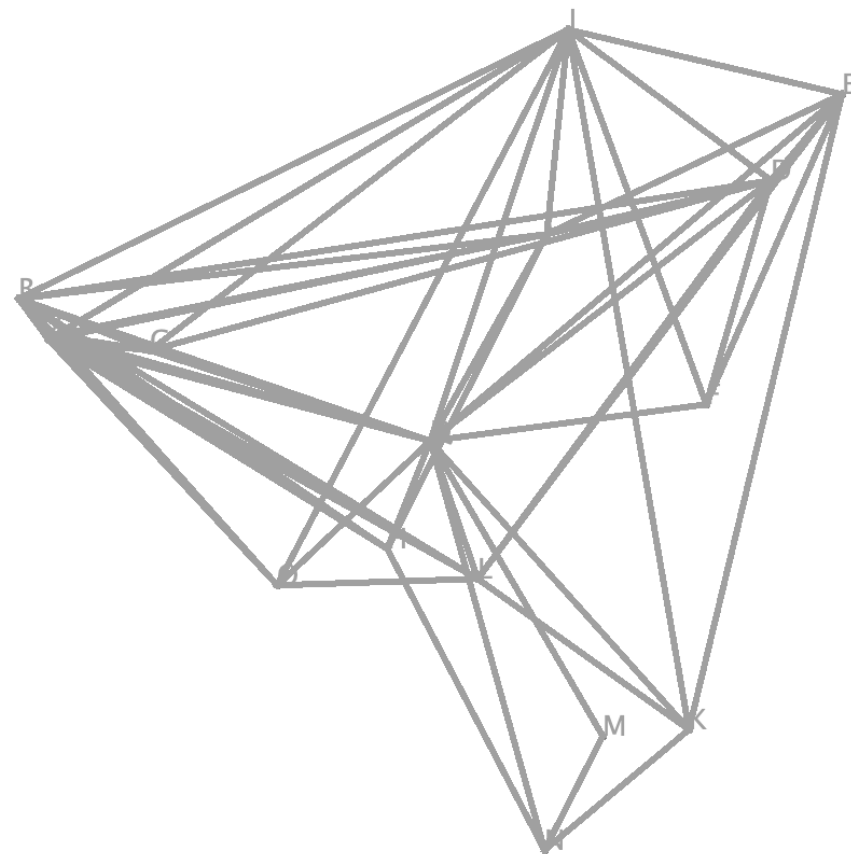
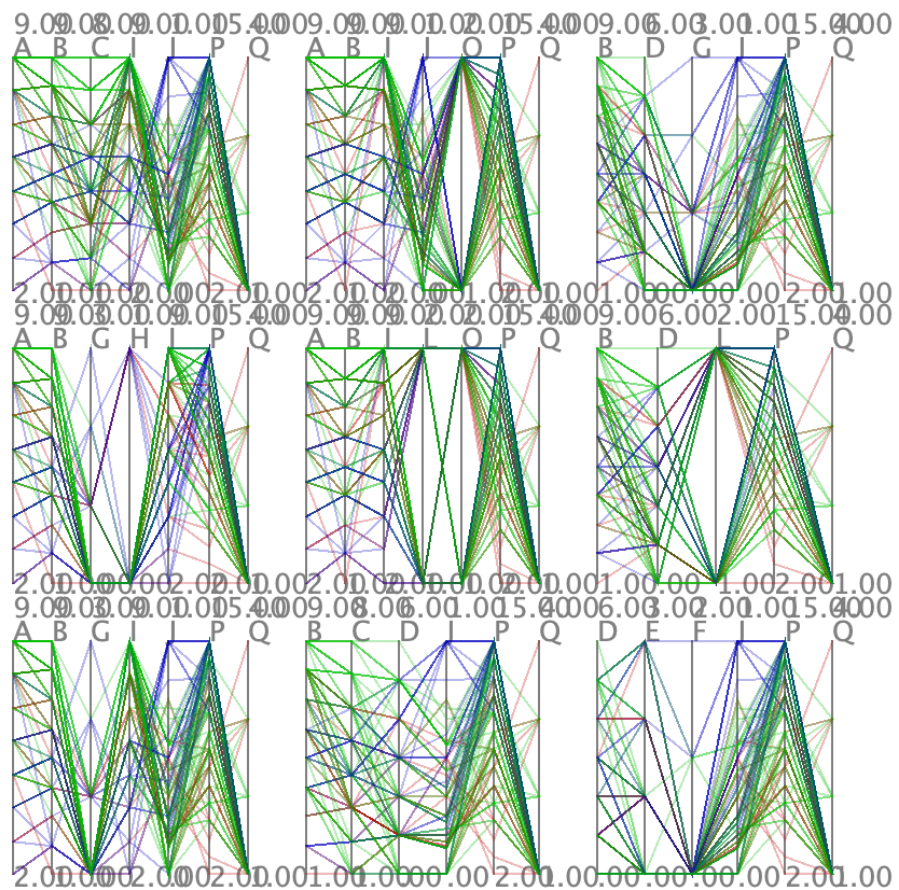
- ・優勝有無(H)に着目

[ABHIPQ]優勝したコンビ(H)は一回戦(A)二回戦(B)ともに初回出場時から確実に通過していることが多い。ここでAからBで斜め上にあがっているがAの範囲が2~9でBの範囲が1~9であるからである。また2015年以降のデータしかなく優勝者は次年度の大会に出場しないことから一回戦二回戦の通過回数自体は多くない。

- ・メインスタイル (L)に着目

[AILOPQ]1回戦敗退しているコンビ（一回戦通過(A)から出場回数(I)にむかう線がななめ上になっている線）はメインスタイル(L)がしゃべくり漫才(1)であることが多い

5.5.1 実行結果



5.5.2 実行結果

- ・準決勝進出率(J)に着目

[ABIJOPQ]準決勝進出率(J)の高いコンビと地域(O)を繋ぐ線の傾きなどから判断すると、関西(1)の方が全体的に準決勝進出率が高い。しかし、特に目立つ準決勝進出率の高いコンビは関西関東どちらも同じくらいである。

- ・メインスタイル(L)に着目

[BDLPQ]準々決勝通過(D)は二回戦通過(B)よりハードルが高いため軸が0~6であるにも関わらず多くのコンビはBからDで下がっている。逆に上がっている組は二回戦通過後に準々決勝通過まで着実に通過していることが多いことを示す。上がっている組のメインスタイル(L)との関係を知りたいが、線が重なっていてわかりにくいため、下がっている組もあるが比較的上がっている組の割合が多い赤と青の線に着目すると、Lから結成年数に伸びている線から、コント漫才(2)の方が赤と青の線が多い。よって二回戦から準々決勝まで勝ち進みやすいのはコント漫才であることがわかる。

6.1.1 まとめ～各要素とM-1の成績の関係

- ・ **メインスタイル(L)とM-1の成績(A~K)の関係**

1回戦～準々決勝まで勝ち残りやすいのはコント漫才である

->これは予想通りである。一方準決勝以上だとしゃべくり漫才も強いのでしゃべくり漫才で面白いネタを作るのは難しいのだろう。

- ・ **サブスタイル(M)とM-1の成績(A~K)の関係**

サブスタイルと成績は強い関係は見られなかった

->少し意外だったがたしかにM-1決勝では色々なサブスタイルの芸人がでているので納得だ。

- ・ **所属事務所(N)とM-1の成績(A~K)の関係**

所属事務所と成績は強い関係は見られなかった

->これは意外だった。今話題の吉本鎖国（他の事務所の芸人をよしもとの劇場によばない宣言）と関係深いかもしれない。

・地域(O)とM-1の成績(A~K)の関係

全体的には関西の方が準決勝進出率が高いが、特に高いコンビは関東、関西ともに同じくらいである

->もっと大きく差がでると思っていたので意外だった。吉本以外の芸人は関東が多く、所属事務所に成績の差がないことに関係しているかもしれない。

・結成年数(P)とM-1の成績(A~K)の関係

結成年数の長いコンビの方が準決勝進出率、決勝進出率ともに高い

->これは予想通りだった。多くの芸人は劇場で場数を踏んで安定するのだろう。

・性別(Q)とM-1の成績(A~K)の関係

男男コンビの方が準決勝進出率、決勝進出率ともに高く、優勝しているコンビも男男である(2015以降)

->これも予想通りだった。元々女性芸人の母数が少ないので仕方ないように思う。

6.1.2 まとめ～好成績のコンビの特徴

- ・ 出場当初から 1 回戦は通過している
特に優勝しているコンビは当初から 2 回戦も確実に通過している
- ・ 準決勝進出率が高いコンビほど、決勝1stステージ進出回数が多い
- ・ コント漫才の方が予選を通過しやすい
- ・ 結成年数が長い方が優勝しやすく、好成績である
(2023は若手の令和ロマンが優勝しましたが。。)

6.2.1 結果から考えるカベポスター

<カベポスターについて>

ツッコミが浜田順平、ボケが永見大吾の2人組でしゃべくり漫才が主な芸風。吉本に所属しており、現在はよしもと漫才劇場に所属して関西を中心に活動している。2年連続M-1ファイナリストとなり、関西のテレビ番組やラジオ番組でレギュラーを何本ももつ人気のある芸人だ。しかし彼らは決勝1stステージを通過したことがなく悔しい思いをしている。芸歴10年をむかえ、大阪の賞レースにもでられなくなり、今目指すはM-1優勝だとラジオで話していた。ぜひ、2024年こそはM-1決勝1stステージを通過してほしい。

<データ>

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q
9	8	3	4	2	0	0	0	9	0.444 44444	0.222 22222	1	9	1	1	9	1

<考察>

決勝1stステージを通過(G)しているコンビは準決勝進出率(J)が高い。カベポスターの成績を見ると、準決勝進出率が高いように思う。来年には決勝1stステージを通過できる可能性は十分ある。メインスタイル(L)はしゃべくり漫才(1)だが、準決勝進出率は高く、最近は安定しているため、このまましゃべくり漫才を続けてほしい。

6.2.2 結果から考えるフースーヤ

<フースーヤについて>

ツッコミが田中ショータイム、ボケが谷口理の2人組でコント漫才をベースにし、ギャグを連発する芸風。芸歴1～3年目くらいのところに「オーマイゴットファザー降臨」でブレイクし一躍人気者となる。現在はよしもと漫才劇場に所属しており、関西を中心に活躍している。彼らは今年はじめて準々決勝を通過したが惜しくも準決勝敗退し、敗者復活戦に臨んだ。敗者復活戦のトリを飾った（おそらく準決勝の順位が10位であった）が、敗北し、アナザーアナザーストーリーでは悔しくて泣いている姿が放送された。2024年こそはぜひ決勝進出してほしい。

<データ>

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q
7	7	3	1	0	0	0	0	9	0.111 11111	0	2	4	1	1	7	1

<考察>

準々決勝進出率はそこまで高くなく、3回戦敗退することが多い。一応コント漫才なので予選はコント漫才の方が通過しやすいという点では問題なさそうである。サブスタイルのギャグ要素が強く、一部の人には彼らのスタイルが認められていないことが問題のように思う。しかし、サブスタイルとM-1の成績に強い関係は見られないため、これからさらに彼らのスタイルが認められるようになれば決勝進出も可能だろう。